

いま学校は？ そしてフォーラムの役割は？

— 第3回総会での発言から —

教育文化フォーラム第3回総会は5月20日(日)、前橋市総合福祉会館で開かれました。

活動のまとめと会計・監査報告(これまで)と今後の活動方針、予算(これから)は議案書を見ていただくこととし、ここでは当日の出席者の主な発言を紹介します。

(議長・守随吾朗さん=館林)

○ 先ごろ「先生、卒業しました！」との電話があった。高校教育研究所時代に中学生の息子の不登校で相談に来た母親から。最初の高校はすぐに中退したが、その後入った商業高校定時制で新聞配達をしながら10年後の卒業にこぎつけたとのこと。ジョブカフェに現れた彼は昔とは別人のようだった。聞けば学校で学んだ簿記に興味を持ち、次々と資格を取って自信もついたという。まさに「育ちと学び」を地で行くようなうれしい話だった。
(瀧口代表のあいさつから)

いま 学校では…

○ 今度の県教育長は久々に知事部局出身でない学校現場の出。総じて今の管理職は組合に所属した経験がない。ある校長は赴任する先で教頭や主事主任がノイローゼになるという。また義務制のある学校では校長が先頭になってドリルとトレーニングばかり。教員は每晚9時前には学校を出られない。(教育ネットワークぐんま事務局の情報交換から)

○ 現職(定時制)だが、若い先生が勤務時間の2時間も前から出てきて職員室の掃除や時にトイレ掃除もしている。一体何が起きているのかと思ってしまう。息がつまりそう。

○ 地域で学校給食の自校化方式について勉強しているが、出てくる母親は一人であとはジイちゃん、バアちゃんばかり。保育の新システムについて園長が話すというのに、肝心の保育士はほとんど出られない。それほど忙しいということ。それでも町づくりや雇用の

問題をも見通して考えていかねば…。

○ 転任早々の会員から「学校が病んでいる。パワハラまがいの事例も…」の声が寄せられた。みんな語りたが言葉に出せない思っている。覆面座談会をやってみては…。

フォーラムの果たす役割は…

○ 男女共学・ジェンダー部会は部員3人で活動もままならず、むしろ大学の先生たちを中心とした「男女共学を実現する会」に参加する機会が多いため、フォーラムに部会の存在理由があるのか考えてしまった。しかし方針で「つなぐ役割」をきき、現職の先生たちにも積極的に働きかけてもっと活動の場を広げられないかと思い始めている。

○ T市の市議として学期制の問題などに取り組んでいるが、こういう場に参加し、現場で活動するみなさんの声を聞きたい。

○ 別学も私が勤めるフレックススクールも差別と偏見の所産だと思う。フォーラムの運営に現職の人間が関わるのは今の状況では正直重いが、つながりを求めて自由に参加できる場があることはとても大事なこと。そう考えれば会員の二百数十名は決して少なくない。

《文責：内藤真治／写真：長谷川陽子》

